



## 手話の普及が ささやかな幸せを育む

手話サークル「パピヨン」代表  
井上光子 さん

前向きな取り組みが  
組織を変えた

「私たちのサークルは手話の世界への入り口。数年前から、首相会見や気象庁の発表などに手話通訳が付いたことで、興味を持った若い人の入会が増え、活気が出ています」  
そう話すのは、手話サークル「パピヨン」の井上光子さん。同サークルは、耳の聞こえない人と聞こえる人合わせで約40人が活動しています。

「サークルの参加者で、耳が聞こえないことで意思疎通ができず、仕事の習得にかなりの時間がかかった人がいました。彼は、5年がかりで同僚に手話を覚えてもらい、意思疎通ができるようになったそうです。その中には、手話を担うようになった人も。この取り組みをきっかけに、職場で耳の聞こえない人の雇用を始めるという大きな変化もありました。この経験を生かして、彼はサークルメンバーとして今も活躍しています」

条例の制定を機に  
手話への理解を

市では、4月から手話言語

条例が制定されました。

「手話への理解を広げるために、市と私たち関係団体が力を合わせて、手話の普及や啓発を進めていきます。その際、耳の聞こえない人が実際に何に困って、何を必要としているのか、当事者の声を傾聴することが重要です」

日常の少しの配慮が大切だと井上さん。

「薬局で支払う際に、従業員の方が手話で対応してくれました。そのことが、本当にうれしかったとメンバーが話してくれました。条例の制定を機に、手話で簡単なあいさつなどをできる人が増えればうれ

しいですね」

当事者の声を聞き  
生かせるまちに

「当事者の声を生かせる、誰にとっても優しいまちになって欲しい。耳が聞こえなくても日常生活の中で、ささやかな喜びやうれしさを、当たり前と感じられる環境をつくっていきたいですね。そのため、今後は手話を知ってもらう機会を増やしていくとを考えています。手話を楽しく学べるイベントを開催したり、子ども向けに声と手話で絵本の読み聞かせを行ったりできたらと思っています」



1\_長年にわたる活動や実績などが評価され、2年に緑綬褒章を受章  
2\_手話言語条例成立を祝う関係団体  
3\_メンバーが学生に手話を指導

おとな子どもも

食と育つ

保健センター  
☎ 072(758)4721



サラダちらし

蒸し暑い梅雨の時期にはさっぱり味

**memo** 5月号では「よくかんで食べる」ことの大切さを紹介しました。今月は実践編として、食感を楽しめるサラダちらしのレシピを紹介。その他にも、市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）で小魚入り変わりハリハリなど2品のレシピなども紹介します。



消費生活センターだより

消費生活センター  
☎ 072(740)1167

墓じまいとお墓の引っ越し

今後、お墓をどうするか  
親族の話し合いと費用の確認が大切です

**事例** 遠方に先祖代々のお墓がある。高齢になり、墓参りができなくなったので、自宅の近くにある霊園にお墓を移したい。どうすればいいか。(80歳代 男性)

**回答** お墓を片付けて更地にし、墓地の管理者に返還することを墓じまいと言います。また、埋葬されていた遺骨を別のお墓に移すことをお墓の引っ越し(改葬)と言います。

改葬の一般的な手続きは次の通りです。

- ①引っ越し先のお墓の管理者に受入証明書を発行してもらう
- ②現在のお墓の管理者に埋蔵証明書を発行してもらう
- ③現在のお墓がある市区町村の役所に受入証明書と埋蔵証明書など必要書類を提出し、改葬許可の申請を行い、改葬許可証を発行してもらう（必要書類は、事前に確認してください）
- ④現在のお墓の管理者に改葬許可証を提示し、遺骨を取り出す
- ⑤墓石を撤去し、更地に戻す
- ⑥引っ越し先のお墓の管理者に改葬許可証を提出し、埋葬する。

寺院墓地にお墓がある場合は、改葬の際に離壇料と称するお布施を求められることがあります。金額に納得がいけない場合は話し合いが必要です。

⑤で墓石を解体、撤去して更地に戻すために石材店に依頼する際は、見積もりを取るなど事前に費用を確認してください。

社会の変化とともにお墓に対する考え方は変化し、樹木葬や合祀墓、納骨堂など多様化してきました。お墓は継承者だけでなく、広く親族を含めた家族のものと言えます。墓じまいや改葬については親族と十分に話し合ってください。

レシピ提供・調理協力 川西いずみ会

●材料 4人分

- 白飯 …………… 600g
  - キュウリ …………… 1/2本
  - 赤パプリカ …………… 50g
  - ホールコーン …………… 60g
  - ベーコン …………… 6枚
  - サニーレタス …………… 4枚
  - ミニトマト …………… 8個
  - パセリ（粗みじん切り） …………… 適量
- 【A】 サラダ油（大さじ2）、酢（大さじ1）、レモン果汁（大さじ1）、しょうゆ（大さじ1/2）、塩（小さじ1/4）

熱量（おとな1人分）：443kcal、塩分：1.4g

●作り方

- ①キュウリ、赤パプリカは5mm角に切り、ホールコーンはさつとゆでて水気を切る。
- ②Aを混ぜドレッシングを作る。
- ③ベーコンは1cm幅に切りフライパンで炒める。白飯に①と炒めたベーコンを加えて②で作ったドレッシングを混ぜる。
- ④器に盛り付け、サニーレタスとミニトマト、パセリを飾る。

生きる

人権推進課  
☎ 072(740)1150

「できる」と「できない」3

一緒に喜び合う事が  
人権の推進につながる

養護学校で6年間私が担任した、重度知的障がいを伴う自閉スペクトラム症のタカマサくん。彼と自身の将来を悲観的に考えるお姉ちゃんに、私は、「タカマサくんが何もできない訳じゃないことを証明する」と、とっさに約束をしてしまったのです。彼の中学部進学とともに、思うところがあって教員を辞めてしまった私は、ご両親を説得し、彼と歩き始めた訳です。春の雨の中、川西市役所へ歩いて訪れたことは4月号のコラムで紹介しました。ずぶぬれの私たちの中で、一番元気だったのは、やっぱり彼でした。

その翌年も、春先なのに日焼けした真っ黒な顔を並べて一緒に歩き、6日目に城崎マリワールドに着いた時、「タカマサ、できるじゃん！3回で500mも歩いたやん！」と、私は心から彼に言いました。意味は分らなかっただろうけれど、仲良しの栗木が喜んでくれるんだから、きっと良いことなんだろうと彼はケラケラと笑っていました。

その結果を、彼の両親やお姉ちゃんがどう思っていたのか、また、彼自身がそれをどう捉えたのかも真相は分かりません。でも、彼は周りのおとなたちから、「すごいなあ、頑張ったなあ」と、次々と声を掛けられました。それは、みんなが「できない」と思っていたことを、彼は「できる」ということを周りに示すことができたからではないでしょうか。

「できない」ことをどう考えるかも、人権感覚を養う上で大切なことですが、「できる」ことを一緒に見つけて喜び合うのも、楽しく人権を考えることにつながると思いませんか。

(motto ひょうご 事務局長 栗木剛)